

外来での口腔外科処置シリーズ「口腔領域の外傷における初期対応」

第2回

顎骨骨折

別府医療センター 歯科・口腔外科
大分大学医学部 歯科口腔外科
小野敬一郎



顎顔面外傷で一般歯科医院を受診する場合は、おそらく顔面皮膚の損傷はあっても軽度の擦過傷か打撲程度であろう。あるいは口唇の皮膚・粘膜裂傷を伴うような場合も含まれるかもしれない。ここでは、受傷後意識障害なく、独歩で受診できる状態を想定している。もし、頭部の受傷や耳鼻科、眼科領域の受傷が明らかな場合は、口腔内の止血処置など最小限の必要処置を行い、早めに該当科あるいは総合病院への紹介を勧める。

顎骨の外傷性骨折の原因として、交通事故、作業事故、転落、殴打、スポーツによる外傷などがある。

1. 受傷状況

受傷の日時、場所、原因を聴取し、顔面の疼痛や腫脹の部位を確認する。

さらに、口腔粘膜の損傷範囲や歯牙破折、歯牙脱臼の有無を確認し、咬合異常がないか上下の歯を噛んでもらい確認する。

2. 止血処置

受傷直後で出血がある場合は、部位を確認し、必要があれば縫合などの止血処置を施す。この際、創部に土や砂利などの付着がある場合は、生食と滅菌ブラシなどでよく洗い流す。汚染がひどい場合には破傷風の危険もあるので、高次医療機関への紹介も考慮する。また、数日経過し壊死組織などがある場合、あるいは挫滅創になっている場合は、デブリードマンや創の形態修正が必要になる場合もある。

3. 顎骨骨折の確認

咬合不全や受傷部位に強い圧痛がある場合は骨

折を疑い、歯科用標準X線撮影や咬合法撮影、パノラマX線撮影、CTなどその医院で検査可能な方法で確認する。下顎骨の場合は直接の受傷部位とは離れた下顎骨関節突起などに介達骨折をきたす場合があるので注意を要する。

下顎骨折の好発部位は関節突起頸部、骨体部、下顎角部などで、埋伏智歯が存在する場合はそうでない場合に比べて下顎角部での骨折が3倍多くなるとの報告がある。

頬骨部を受傷した場合は、頬骨上顎骨複合骨折の状態（写真1）となることが多い。

治療は顎機能および審美性回復が主になるが、特に咬合の回復は重要である。

4. 骨折線上の歯牙

骨折線上の歯牙は歯根破折や感染など絶対的な抜歯適応でなければそのまま保存を試みる事が推奨されている。歯髓反応が消失していても、約9割は1年以内に反応が見られる様になるとの報告がある。臨床的あるいはX線学的に失活の兆候がみられるまでは、歯髓反応がないからと言って歯髓処置をする必要はない。

5. 注意する合併症

糖尿病やステロイドの服用など易感染性の状態や、抗凝固療法・抗血栓療法実施の有無、骨粗鬆症に対するビスフォスフォネート製剤の使用の有無などを確認する。

6. 治療

骨折片の変位が大きく観血的整復固定術が必要な場合は、高次医療機関へ紹介する。

保存的に対応可能な場合は、線副子（三内式

シーネ、シュハルトシーネなど) とワイヤーを用いた顎間牽引・固定を3～4週間行い、その後咬合のずれに注意しながら経過観察を行う。特に顎関節付近の骨折では、積極的な開口訓練が必要になる場合が多い。

近年、チタン製顎間固定用スクリューを用いることで、顎間固定も比較的容易になっているが、ある程度の経験が必要であるので、無理をせず必要に応じて高次医療機関へ紹介するのがよいと思われる。

7. 症例提示

次に骨折が疑われた症例および特に積極的治療を必要としなかった症例を提示する。

<症例1>

42歳、女性、介護施設職員

入所者の足がオトガイ部に当たって受傷。口が閉じられなくなり直ちに当科受診。

開口域：31mm

経過：シューラー氏法にて顎関節周辺の骨折がないことを確認し、経過観察とした。6日目の再来時には咬合可能で、開口域も48mmとなる。

診断：両側顎関節打撲（介達性）(写真2)

<症例2>

62歳、男性

自転車で転倒し受傷、他科緊急入院。CTにて下顎骨骨折を認め、翌日当科受診。左下顎関節突起頸部骨折を認めるが、同部の腫脹、圧痛なし。以前にも転倒の既往があり、今回の受傷による骨折ではないと判断した。(写真3)

診断：左陳旧性下顎関節突起頸部骨折

<症例3>

17歳、男性

野球のボールが左顔面に当たり受傷。

左上顎洞前壁の陥凹あり→保存的に処置。

(写真4)

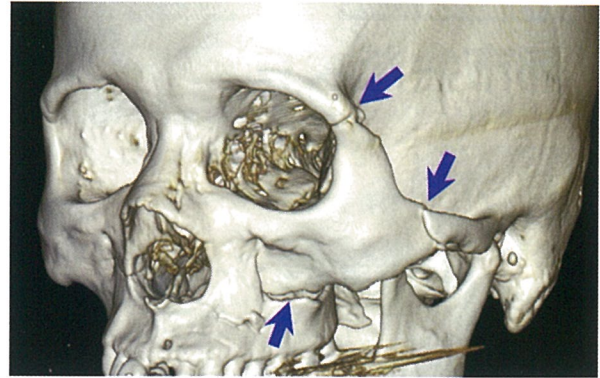


写真1 上顎洞前壁、前頭頬骨縫合、頬骨弓に骨折が見られる。

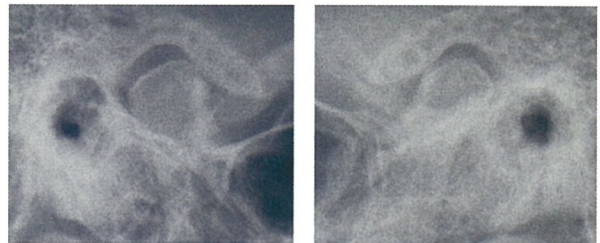


写真2 シューラー氏法: 関節包内の炎症のため完全には関節頭が関節窩内に収まらない



写真3 (左) 左眼瞼の内出血、左頬部擦過傷 (右) CT、左顎関節突起頸部骨折(陳旧性)

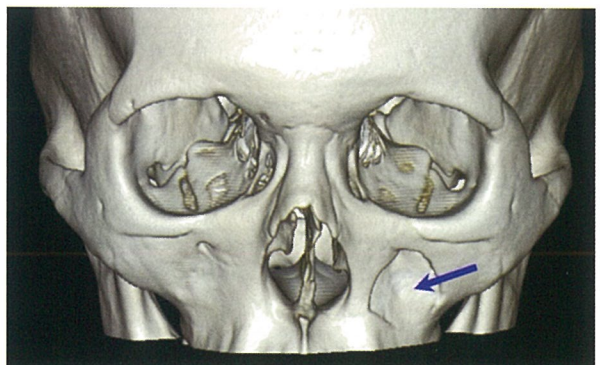


写真4 左上顎洞前壁の陥凹骨折(軽度)